

1 青少年教育に関するモデル的事業  
ウ 地域探究プログラム



全国高校生体験活動顕彰制度  
「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 諫早  
学校参加型:佐世保南高校文理探究科1年生

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家  
〔協力〕 諫早市危機管理課  
〔期日〕 令和7年4月22日(火)10:00 ~ 23日(水)15:00 【1泊2日】  
〔会場〕 国立諫早青少年自然の家、諫早市中央公民館、諫早公園、本明川周辺  
〔参加者〕 佐世保南高校文理探究科1年生 80名  
〔担当職員〕 中里 文彦、戸越 信吾、貞方 貴衣、吉田 流風、高山 雄也、日高 由樹

1)趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。

2)SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 全ての子どもたちに質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図ります。</p> <p>目標13 気候変動に具体的な対策を 気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化します。</p>
---	---	--

3)目標

- ①入学間もない生徒間の人間関係を深め、参加者の協調性やコミュニケーション力の向上と、協働的な学びの礎を築きます。
- ②探究活動のプロセスを学び、疑似的に経験することで、今後の探究活動への意欲を高めます。

4)プログラム

1日目(4月22日)	
<p>10:15 【ガイダンス】 開始式、DVD視聴、講話 【写真1】</p> <p>11:45 【フィールドワーク(まち歩き)】 【写真2】</p> <p>12:45 自然の家へ移動(大型バス)</p> <p>13:45 昼食(持参弁当)</p> <p>14:15 入所式、オリエンテーション</p> <p>15:00 【講義①】 防災マップの見方、防災・減災について</p>	<p>16:00 【講義・演習①】 防災マップについて考察①</p> <p>17:00 防災マップについて考察②</p> <p>18:00 夕食(レストラン)</p> <p>19:15 入浴、休憩</p> <p>20:30 振り返りなど</p> <p>22:00 就寝準備、就寝</p>

2日目(4月23日)	
6:30 起床	12:00 昼食(レストラン)
7:15 朝のつどい	13:00 【発表②】 【写真4】 学校周辺防災マップの考察結果発表
7:30 朝食、宿泊棟清掃	14:00 【実践活動のためのガイダンス】 社会のルール・マナーについて
9:00 【発表①】 【写真3】 諫早市防災マップの考察結果発表	15:00 自然の家出発
10:00 【講義・演習②】 【写真4】 学校周辺の防災マップの考察	

## 5)事業展開

### 1 【ガイダンス:開始式、DVD視聴、講話】 【写真1】



諫早大水害のDVDを視聴したり、古賀氏の講話を聞いたりして、防災・減災について自分事として、考えるきっかけとなりました。

### 2 【フィールドワーク(まち歩き)】 【写真2】



諫早市の防災を題材に探究活動を行いました。

諫早大水害の被災状況等について学ぶために、諫早市危機管理課のスタッフに説明していただき、市街地のフィールドワーク(まち歩き)を行いました。

### 3 【講義・演習①】 【発表①】 【写真3】

諫早市の防災マップについて考察し、班ごとにまとめ、発表会を行いました。

防災マップの見方や防災・減災についての講義のあと、フィールドワーク等で得た情報をまとめ、講師に対して質疑を行いながら考察を深めました。最後に小グループごとに発表会を実施し、感じたことや学んだことなどを発表しました。



4 [講義・演習②] [発表②] [実践活動のためのガイダンス] 【写真4】



諫早市内の防災についての探究活動をもとに、佐世保市内の自分が生活している地域や学校周辺の防災マップについて探究活動を行いました。

4つの小グループごとに異なる地域の防災マップについて、“自助・公助・共助”の視点を持ち、「自分たちにできることは何か」、「被害を少なくするために事前にできることは何かがあるか」等、自分事として考え、班の中で議論しながら「他のグループに伝えたこと」をまとめ、小グループ内で発表会を実施しました。その後、グループごとに代表を1班選び、全体の前で発表を行いました。

最後に、所員より、今後の学習の進め方についてのポイントや注意点等の説明を行いました。

6) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ チームで協力ができ、テーマに沿って探究活動の基礎に触れることができたからよかったです。
- ・ 他のメンバーと積極的に話し、1つの課題へ取り組み、円滑に進めることができたので、よかったです。
- ・ 講話を聞くだけでなく、それをふまえた意見交流の時間がたくさんあって充実していました。
- ・ これから行う探究活動の仕方を知れたり、災害について多くのことを学んだりすることができました。
- ・ 講話やフィールドワークなど、普段できない体験ができ、地域について考えるきっかけになりました。
- ・ 防災について学ぶことができ、自分事として捉えるようになりました。
- ・ 悩んでいた際に、自然の家の職員の助言が的確で、スムーズに活動を進めることができました。

7) 成果と課題

① 成果

- ・ 短期間での準備だったが、諫早市危機管理課の皆様に様々なサポートをいただき、連携しながら事業を進めることができました。
- ・ 毎年試行錯誤しながらの実施ではあったが、今回の佐世保南高等学校の取り組みを通して、“諫早青少年自然の家”としての「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿の形をほぼ固めることができました。

② 課題

- ・ 年度初めで担当の先生が決まってから事業までの期間が短いので、新年度入ってからすぐに学校を訪問し、活動内容を決める打合せをしたり、短期間で連絡を密に取ったりする必要性がありました。